

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田1235番地1		
自己評価作成日	平成30年10月15日	評価結果市町村報告日	平成30年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、美里町の市街地や山脈が見渡せるとも景色の良い場所で、特別養護老人ホームに併設して建っています。季節ごとの自然の移り変わりは利用者に安らぎと安心を与え、一年を通して穏やかに楽しく過ごしてもらえる様支援しています。家族と地域の結びつきを大切に、その人らしく生活できるように1人1人の歴史に歩み寄りこれからの生活に寄り添いながら、信頼関係を作っています。共同生活の中では自分で出来ること、家族の一員としてやっていた事など振り返りながら、個々の能力に合わせた自立支援をお手伝いします。地元の食材を使った献立は山間部と言う事もあり一年を通じ豊富で、四季折々の料理を提供しております。他にも、ひだまりで作った野菜を料理したり、誕生会などのイベントごとで皆で協力して料理をするなど食を楽しむ工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の入れ替わりがあったホームは、ささやかながら日常の暮らし向きも変化が見られました。調理や掃除など、出来ることを無理強いくること無く職員と利用者が一緒に支え合う姿がありました。理念である「いつも笑顔で」「その人らしく」「家族や地域との結びつき」を大切にされた空間では、グループホームらしい生活が営まれました。日常的な買い物への同行や外出等、課題として捉え、職員は共有しています。その中でも法人・事業所でのイベントや計画外出、家族との交流に支援を發揮されています。ユニット間の交流もスムーズでその様子はお隣訪問の様でもあります。管理者の世代交代も今年もあり、人材育成にも力を入れ施設の継続や質の高いサービスに前向きな事業所であることが伺えます。今後も利用者の潜在能力を引き出し活動範囲を何時までも維持する支援に期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに、基本理念を掲示している。また、毎日の申し送りや基本理念の唱和をおこなっており、安心して生活が出来るよう環境を整え「その人らしく生活する」ことの意味を考えながら支援を行っている。	理念はパンフレットの掲載や事業所内の掲示等皆が目に行うことができる。毎日の申し送り時の唱和や振り返りで職員間で共有を行い、支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	定期的な傾聴ボランティアの訪問や、法人への慰問・ボランティア等で交流を行っている。また、昨年に引き続き地域の清掃作業への参加や町の祭りやイベントへ出向いた。また、食材の買い物などへも一緒にでかけた。	立地条件等により入居者の日常的な外出による地域との交流は難しくなっているが、法人・事業所では地域との関わりに力を入れている。入居者は町の催事を見学に出たり、また地域からのボランティア受入れ等、相互交流によるつきあいを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座で講師として出向き、認知症の方への理解を促している。また、実習などの受け入れを行い認知症の理解や支援方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、現状報告やリスク・ご意見ご要望等を報告。また、身体拘束に関する勉強会内容や報告も行っている。意見を頂き、職員へも周知しサービス向上に努めている。	隔月の会議には社協・行政の参加も見られる。会議を通じた紹介等により地域・近隣からの様々なボランティア訪問も活発になり、入居者との交流にも繋がった。会議の際には活動の他、身体拘束をしないケアへの取組み等も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や宇城ブロック会議等にて報告や相談し協力関係を築いている。また、不明な点等は役場へ出向いたり電話等で相談できる関係性は出来ている。	運営推進会議には毎回の参加があり、事業所の取組みを積極的に伝えている。また日常的に連絡・相談等で連絡を取り合い、協力関係の構築を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を作成し、勉強会・委員会を定期的開催し周知を行っている。また、運営推進委員会で現状を報告している。身体拘束に繋がりがかねない事例に関しては法人で開催するリスク会議でも検討を行っている	身体拘束廃止には法人全体でケアの方針を検討・議論し、事業所で徹底した取組みを行っている。身体拘束員会では様々な課題検討・確認・事例検討が行われ、職員向けには身体拘束廃止を進めるためのチェックポイントを利用し周知、取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を開催し、意識付けを行っている。また、今年度は職員に対し、虐待についてのアンケートを取り、職員のストレス等へも目を向けておこなった。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や尊厳についての勉強会を行っている。実際に後見人制度などを利用している方はいらっしゃるが、社協からの運営推進会議などへの参加もある為、必要な場合は相談できる関係性は出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約をすすめる際、丁寧に説明し、不安や疑問が残らない様時間をかけて納得して頂ける様心掛けている。また、気軽に相談できるよう信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の行動や発言・表情などで思いを理解し対応を行っている。御家族参加の行事を開催し話をする機会を設けたり、面会や担当者会議で個別の意見を聞くように努めている。また、第三者委員会より、家族へのアンケートを実施している。	現状入居者・家族から特に気になる申し出は無いが、面会や運営推進委員会・行事等を利用し意見を出しやすい環境を作っている。入居者の2ユニット間行き来もあり、全職員が全入居者の状況を把握できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会・ミーティングへ管理者・ケアリーダーも参加し、意見交換を行っている。部長会議やリスク会議等の報告も行い、又、ひだまりとしての意見等は部長会議等へ報告している。	毎月の勉強会を利用し職員の意見を出し合う場としている。会議や日頃の業務での意見は日常的にケアリーダーへ伝えることができ、必要に応じ法人の会議へ提起し運営の反映につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より、メモリアル休暇を6日から8日に増やし、職員のリフレッシュに努める工夫や、勤務日程に関しては出来るだけ希望に添えるような勤務体制が組めるように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひだまり内の勉強会を毎月(2日間)行い、また、研修案内など職員全員が回覧し参加希望があれば法人へかけ合うようにしている。また、宇城地区の勉強会などへの参加もしている。実務者研修受講を研修扱いで参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロック会議の研修会に参加し、勉強や交流を通じ意見交換などをおこない質の向上などにつながる様に努めている。また、今年度は、他施設へ施設見学等も行い、他施設の取り組みなどを知る機会を設けた。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴、事前面談、現況などの情報を入力し、安心した生活が出来る環境作りに努めている。また、本人の思いに寄り添えるケアを行う様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や事前の面談で御家族の思いや困っている事の把握に努め、思いを理解し、どのような事が出来るか話し合い要望に添える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、家族や本人が求めている支援を見極め柔軟に提供する努力をしている。必要があれば、他科受診等の協力も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に応じた自分に出来ることを意識しながら、日常生活の中で洗濯干し、たたみや料理など能力に応じて職員と行っている。不定期に野菜の収穫や掃除なども行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間の行事等案内状を郵送し、家族の参加を呼びかけ、一緒に過ごせる時間を作れるようにしている。また、盆正月の帰省の呼びかけを行い、家に帰るきっかけ作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方に来て頂きたいが、地理的に徒歩で気軽に来れない為、こちらから併設のデイや特養に会いに行き話すきっかけ作りをし交流に努めている。	デイサービス他法人施設の利用者、ボランティア訪問には地域住民も多く、また2ユニット間の行き来等、入居後の新たな馴染みの関係も大切にしている。入居者によっては以前から利用しているそれぞれの美容院からの訪問理容を受ける等、入居者のこれまでの生活を継続できるよう支援している。	これまで行われていた入居者の自宅を訪ね家族・知人と過ごす「ふるさと訪問」は大変良い計画だと思います。家族等の環境によりませんが、これからの継続に大きく期待しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のつながりが円滑に行くように、席の配慮をしたり、1人ひとりが孤立しない様にレクリエーションやゲーム、カラオケなどでつながりを作っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所の際は面会に行ったり、家族との継続的なつながりを持ち、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思表示が困難な場合は、表情や態度で本人の意向をくみとり、月に1回のケア実践シートで把握に努めている。	日々の寄り添いで入居者それぞれを理解し、思いの把握を行っている。その内容も含め毎月担当者が記載するケア実践シートにも反映され、情報の共有、介護計画への反映、家族との情報共有へとつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネなどから、生活歴、趣味、仕事、家族歴など情報を把握し、生活の中で生かされる様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回の実践シートやアセスメントシート等で心身の変化、暮らしの変化を把握し、本人に合った支援につなげられるよう行っている。また、バイタルチェックで日々の体調の変化も確認し、情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	契約時、職員全体で基本情報の把握に努め、本人や家族の思いが十分反映出来る様プラン作成を行っている。また、家族、相談員と共に担当者会議を行い確認している。	入居後、毎月担当者がケア実践シートの作成、介護計画の評価を行う。入居者の変化の状況は職員で話し合い、ケア実践シート・評価を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに生かせるよう個別記録には細目に変化などを残し、職員の情報の共有と実践が出来る様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各事業所や協力医療機関などと連携を図り、柔軟な対応が出来る様努めている。また、家族との信頼関係が築ける様努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、社協、医療機関、家族、職員の協力を得ながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状況に応じ適切な医療が受けられるよう家族へ相談・協力のもと行っている。同時に、日頃より家族の意思確認も行い、反映出来るよう努めている。	入居前のかかりつけ医受診を支援するが、現状殆どの入居者が複数の診療科を持つ協力医の利用で往診が可能である。その他専門医等通院が必要な場合は家族の協力も得ながら職員の通院介助も行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見に努め、気付きや変化があれば看護師へ報告し、必要に応じ病院受診や看護が受けられる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、職員が見舞うように心がけ、主治医、家族から情報を得て回復状況を見守る。退院に向けたカンファレンスに参加するなどし、速やかな退院に向け支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重度化した時の本人、家族の意思確認は早い段階で行っている。実際そのような状況を迎えた時は、本人や家族の意思を尊重し、医師、看護師、ケアスタッフで連絡を取り支援している。	入所時の説明・同意、その時を迎えた際には都度関係者の意思を確認し、同意を得ながら希望を第一として最善の対応にむけ連携をとりながら支援を行っている。現状、食事摂取が難しくなった場合には医療機関への移行もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や急病の対応、手当の仕方を勉強会で行っており、緊急時に備えている。マニュアルについても見直し周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者参加で年に2回消防署や防火管理者立ち合いのもと法人全体で避難訓練を行っている。緊急連絡網を作成し備えている。	法人全体で昼・夜想定で年2回の火災訓練を行い、今年は事業所での出火を想定、隣接事業所との連携訓練を行った。地域的に風水害は心配ないが、風水害マニュアルを策定し、職員会議で共有、台風時等、日頃から注意喚起している。	法人の関係施設が隣接していることから、相互の協力体制も構築され継続した訓練が行われています。被害が少ない地域とはいえ、様々な災害を想定した事業所単独の避難訓練等も計画されてはいいかがでしょうか。

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシーの保護について勉強会を行ったり、人権が尊重されプライバシーが保護できるようミーティングを行い対応や環境作りに努めている	日常業務の中で職員同士意識し合ってケアを行っている。接遇・プライバシー保護に関する勉強会は年間教育の中で設定されており、年1回以上参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の気付きを高め、利用者の会話や行動から思いを察知するように努めている。また、スムーズに自己決定出来る様言葉かけの工夫も心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や臥床時間、食事、入浴など1人ひとりのペースに合わせて対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや、入浴後の服選びは可能な限り本人にして頂いたり職員と一緒に選び、好みの選択を尊重している。女性の髪形なども気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の切り込み等座ったままで出来る作業は手伝って頂いているが、すべての作業を一緒に行うのは難しくなっている。メニューすべてを作る事は難しく、厨房と協力しながら提供をしている。食事の際は楽しく食べて頂ける様に席の配慮をしている。	食事作り時にはユニットを超え参加できる入居者が集まり、安全を第一に下拵えや見学等、入居者の状況によりそれぞれの役割を職員が見だし関わる姿がある。食事の際は職員も食卓で同じ時間を過ごし、入居者との会話ははずみ楽しい一時となっている。	給食委員会も行われ、法人で食事を大切に考える様子が見えました。入居者の高齢化や体調変化により全介助が必要な場面もありますが、皆で食卓を囲み、食事に参加している様子が窺えました。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の変化で食事や水分摂取量が少ない時は、チェック表に記録を残し、情報を共有すると共に、管理栄養士や主治医とも連携をとり必要に応じ相談を行っている。食事形態も本人に合わせて提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアをおこなっており、義歯は毎日洗浄剤を使用し清潔の保持に努めている。必要に応じて訪問歯科の利用も行っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人の排泄パターンや量等を把握し本人に合わせたパットの使用や声掛けを行っている。また、トイレでの排泄を基本とし、利用者の自立支援と負担軽減に努めている。	食べる・飲む・体を動かすことで薬に頼らない自然・自発アプローチを促す工夫が実践されている。リハビリ利用の場合は布パンツを試してみる等、日常的にオムツ使用を減らす取組みが継続されている。	排泄委員会での「下剤に頼らない自然排便を促す工夫」の考えのもと、積極的取組みが見られました。継続した支援に期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便状況の把握をしている。牛乳やオリゴ糖、水分補給や午前・午後の体操への参加を促す事で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴の支援を行っている。その日の本人の体調や気分などに応じて入浴を促している。その日に入浴が厳しい場合は、翌日に再度声を掛けるなど柔軟に対応を行っている。	週2～3回を基本とし、体調や希望を考慮した入浴は、週7日間午前・午後とも利用できる。ほとんどの入居者は見守りを中心とした一部介助である。2ユニットに1か所機械浴が設置されており、身体状況により利用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、日中の活動を促し夜間安眠できるように促しているが、横になりたいご利用者が居れば、休んで頂くように促している。夜間、なかなか眠れない方には水分補給など寄り添い対応を行っている。また、居室の環境にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋は綴っており、職員がいつでも見れる様にしている。介助時も誤薬が起こらない様に名前・日時・時間帯を表示、確認し投薬前に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に合った役割をってもらう事で達成感や充実感を感じて頂けるように支援している。また、カラオケや体操など参加を促し、楽しみや喜びに繋げている。野菜の栽培なども見える所でいい収穫を楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブ、買い物など外出の機会を設けている。また、地域の行事などにも見学に行くなどしている。また、家族の協力を得て、帰省の支援も行っている。	敷地内の他事業所訪問・散歩や園庭での外気浴、また共用空間は広く外と接していて外気を感じる機会が多い。近年家族との日常的な外出が減ってきていることから、日によって一人から複数名での買い物同行やドライブ等、計画行事以外の外出も支援している。	事業所でも課題とされているようですが、現状入居者のその日の希望に添った外出支援は難しい環境の中、工夫した外出支援の様子が窺えました。今後の継続に期待します。

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	園外に外出される時は、預り金からお小遣い程度の金銭を持参し、希望の買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、いつでも電話を掛け直接話ができる様な環境作りをおこなっている。また、年賀はがきなど書ける方には自分で書いていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着く場所にソファを設置したり、季節を感じられる様に壁面を装飾したりしている。室温・光には配慮し調整している。トイレの臭いなどもバット等は一枚一枚新聞で包み捨てることで不快の軽減に努めている。	明るく開放感のあるリビングは地域の山の景色を楽しむことのできる温かな空間で、車いすもゆっくり通ることができる広い作りである。皆でテレビを楽しむことができる様、色々な向きでソファや椅子が所々に設置され、食事後等にはそれぞれの好みの場所でくつろぐ姿がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由な場所でくつろげるようにソファやイスを配置しており、数人で過ごしたり、1人で過ごせる様空間の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力により、使い慣れた家具や寝具、日用品を持ち込んで頂いている。また、家族の写真や本人の興味のある物を飾るなどして、安心して空間造りを行っている。	以前から使用している家具は、歩行時に手すりにもなるよう配置されながらも安全への配慮もされている。家族写真も多く、家族との関わりも感じられる。各部屋、家族より加湿器の持ち込みがされ、事業所・家族と協力し、入居者の安全・安心への配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向け、各居室には名札を付けたり、共有場所には名札や矢印を付けるなど工夫を行い、自分で動けるようにしている。		

## 2 目 標 達 成 計 画

グループホームひだまり

作成日 平成30年12月19日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	御利用者個人の馴染の関心の継続が今年度はあまり出来ていない。	関わりを持つことで、家族の一員としての存在の価値を感じていただく。	・御家族の協力を得て、ふるさと訪問を実施し、地域、家族とのつながりを感じていただく。	12か月
2	2	地域交流が少なくなっている。法人としての慰問やボランティアはあるが、ひだまりへのボランティアや慰問は少ない。	施設や活動を知って頂く事で、交流のある開かれた施設を目指したい。	・文化祭などへの参加や町への行事ごとなどへの積極的な参加を継続し、知って頂ける様に活動を行う。	12か月
3	35	年に2回の法人としての避難訓練を行っているが、ひだまり独自の災害を想定しての訓練などは行っていない。	利用者が安心して暮らせ、職員が安心して働け緊急時に速やかに動けるようにする。	・台風等に対するマニュアルの作成 ・ひだまり独自の防災に対する勉強会などの開催。	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。